

\*許可を得て norikoogawa.com に転載しています。「しんぶん赤旗」の許可なく本記事を転載することはできません。

# エリザベスは チョコバーがお好き

6

小川典子

「英国人の城はその家である。愛する「城」の面倒をみる。英国随一の誇りであり、座右の銘。寒い北風と南からの暖流がぶつかる英国では、雨風をしのげる「城」は絶対不可欠だ。

**私** の自宅は築110年。大威張りで鎮座するピアノの、左足は裸足だが右足には5枚の皿。それほど床が傾いている。古い家は、壁紙をはがせば前代の家主の選んだ色が幾重にもなっていて顔を出し、窓はゆがんで一度開けたら閉めることができない。風呂に入る習慣が普及してから後づけされたバスルームは、何かの拍子に床が抜け、階下の部屋が大洪水にな

る。愛する「城」の面倒をみることは、英国人にとって終わりなき年中行事。修理がうまい熟練職人の情報に敏感になるのも無理はない。

その需要に応えるように、街では、親方の大企業に暗い影を感じ、夜間学級へ通う人が現れはじめた。水道管の構造を学び、職人として再出発を目指すワーキングクラスの工場労働青年。目標に向かって努力する様子がテリー(テレビ)で紹介される。中流ミドルクラスが独占した事務職だが、この時代、オールド・スクール・タイをかざして高い倍率をくぐっても、出世の望みが持てない。机を見切

## ワーキング、ミドル、アッパー

り、手に職をつけて活路を見いだそうと立ち上がる若い世代も増えている。

**古** くから地主として生きてきた貴族アッパークラス。文字通り「城」を相続するも、その管理は容易ではない。先代が朽ちる城の修理にあてるために売り払った銀食器を買い戻しながら、「城」存続に努力を注ぐ。収入源は、資産運用から馬小屋

の販売、城の一般公開、敷地の国有化、庭師業や競売人などで。アノラックを被り、自ら斧を手に庭を耕す貴族たち。できることは何でもやる。そしてどんなに手が土にまみれても、伝統ある貴族教育を受けた彼らは、高潔であり続ける。芸術に深い理解を示し、恵まれない境遇の人々に心をくだくその精神は、そびえる城と共に継承されている。

**全** ての階級に支えられて生きる音楽家たちは、まさに職人だ。約束の場所(コンサートホール)で技術(演奏)を披露、それに見合ったもの(演奏料)をいただく。単純である。英国人の世界的ピアニストが誇れるものは、出身階級のレッテルには無関係の10本の指。無心に「城」を修理する職人たちの背中を見るたび、私は、日々



自閉症児・障がい児の家族のための「ジェイミーのコンサート」で  
欽談する小川さん (浜西重利撮影)

黙々と技術を磨く音楽家がワーキングクラスであることへの思いを強くする。階級の隔たりを突破する力を持つ音楽を味方に、超階級歴22年。スタッフینگ・マイ・フェイスが大好きな日本人ピアニストの、英国生活は、これからも続く。

(おわり)  
(おがわ・のりこ  
ピアニスト)